

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.28



今年度の市長コラムでは、「市民協働」で取り組むべき課題について順次お伝えすることとしており、初回となる前回は「防災対策」について述べさせていただきました。

今回のコラムでは、「ごみ対策」について私の考えをお伝えしたいと思います。

★ごみ減量化に向けて「食品ロス」対策は重要な課題です！

環境省では6月を「環境月間」としており、それに合わせて、市においても、ごみの減量化に向けた取り組みを推進することとしています(3ページ掲載)。

当市の1人1日当たりのごみ排出量(令和3年度)は1,030グラムと、県平均1,002グラム(全国平均890グラム)を上回っており、県内10市で4番目、40市町村では13番目に多い状況となっています。当市総合計画においても、令和6年度までの目標値を867グラムと設定していますが、達成は困難な状況です。

ごみ減量化が進まない大きな要因の一つには「食品ロス(本来食べられるのに捨てられる食品)」があると考えられます。

日本における食料自給率は、カロリーベースで約38%(令和4年度農林水産省発表)と極めて低く、その一方で、「食品ロス」として、令和2年度の推計では全国で年間522万トン、国民1人当たり約41キログラムが廃棄されています。世界に目を向けると、年間約13億トンが廃棄されており、これは、世界の食料生産量の3分の1に当たります。全世界で飢餓状態にある人口は約8億2千万人(9人に1人)いるといわれている中で、先進国では「食品ロス」が増加しているというのが現状です。

また、「食品ロス」は、生ごみとして焼却処分することによる地球温暖化など環境への影響や、焼却処分に要する経費が莫大であるなど多大な問題を引き起こしており、「SDGs(持続可能な開発目標)」達成のためにも、一人ひとりの行動により地球環境や社会全体を変えることが求められています。

市においても、ごみ対策は最優先事項として取り組んでいきたいと考えており、特に「食品ロス」に着目し、市民

への意識啓発を図るほか、3R(リデュース・リユース・リサイクル)行動等に関する周知徹底に取り組んでまいります。

ごみの減量化を実現するための基本は、私たち住民の日常生活のあり方にかかっています。「千里の道も一歩から」というように、一人ひとりが意識を変え、今できることからしっかりと実践していくことが必要です。

そこで、今後は、市職員が各地域に積極的に出向き、出前講座等を行うこととしていますので、お気軽に市役所環境対策課にお問い合わせください。

また、将来に向けて着実にごみ減量化を進めるため、子どもたちへの教育の中で「食品ロス」削減への啓発等を重点的に進めたいと思っています。子どもの段階から働きかけることが重要であり、園児や児童に対し、ごみ問題に対する意識啓発や教育を粘り強く行っていくことが、将来のごみ減量化につながる有効かつ不可欠な対策であると考えています。

さらには、「食育」を進め、「食」の大切さを学び、食べ物を大事にすることもしっかりと子どもたちに伝えていければと思っています。

住民、事業者、行政が一体となって、「市民協働」でこれらの課題に真剣に向き合い、着実に歩みを進めることが極めて重要ですので、市民の皆さんにおかれましては「ごみ減量化はまず家庭から」という意識を持っていただくとともに、ご家庭においても、子どもの模範となるような行動を日頃から心掛けていただきますようお願いいたします。

★「五所川原立佞武多」25周年を盛り上げましょう！

コロナ禍の影響で令和2年度から2年間中止され、昨年度は規模縮小しつつも3年ぶりに開催し、そして今年度はようやく例年通りの開催となります。25周年の節目を迎える今年の夏まつりを「脱コロナ」「地域再生」のスタートと位置づけ、市民の皆さんの熱い思いで大いに盛り上げていきたいと思っています。企業や団体の皆さんにおかれましては、6月末まで曳き手を募集(6ページ掲載)しますので、ぜひご協力いただきたいと思います。



「ごみ減量化」をテーマに開催した昨年度の住民懇談会の様子



「新作立佞武多」素戔鳴尊(すさのおのみこと)記者発表の様子